

## 明石市西部におけるヤマトアオドウガネの現状

三木 進<sup>1)</sup>

### はじめに

南方系のアオドウガネ (*Anomala albopilosa*) が、ドウガネブイブイ (*Anomala cuprea*) やヤマトアオドウガネ (*Anomala japonica*) を駆逐しながら北上しているという。関東ではヤマトアオドウガネが激減。兵庫県でも「記録地が少なく、今後の動向が危惧される」として、2012年の兵庫県版レッドデータブックでは、「個体数激減」を理由に、これまでの要調査からCランクに変更された。

河川敷や海岸寄りの地域に多いとされ、神戸、西宮、伊丹、川西、明石、加古川、丹波、淡路の各市に記録があるという。海岸から500m、赤根川から100mほどの明石・江井ヶ島に住み、以前からヤマトアオドウガネを見る機会があったので、この地域での実態はどうか、2012年5月1日からほぼ毎晩、マンション1階でブラックライト(300W)による灯火採集を行った。

### 両種の分布と発生期

ヤマトアオドウガネの分布は本州、佐渡島、粟島、伊豆諸島、小笠原諸島、四国、九州、壱岐、五島列島、甌島列島、男女群島、屋久島。国外では、濟州島、朝鮮半島。発生は6月から9月。

アオドウガネの分布は本州、佐渡島、伊豆諸島、四国、九州、対馬、壱岐、甌島列島、大隅諸島、トカラ列島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄島、伊平

屋島、久米島、宮古島、多良間島、石垣島、西表島、与那国島。国外では、台湾、濟州島、朝鮮半島、奄美、沖縄、八重山(先島)、与那国島には、それぞれ4亜種が分布する。本州における発生は6月から9月。

### 分類方法

両種の区別は

- ①ヤマトアオドウガネは尾節板の前部と先端部にのみ横一列に黄色の毛がある(図1)のに対し、アオドウガネは中央部を除く、ほぼ全面に多くの毛がある(図2)こと。
- ②上翅側縁の隆起が、肩部より前種は2/3まで、後種が3/4まで縁取られること。

を総合的に判断した。

### 調査結果

ヤマトアオドウガネは、6月2日～7月6日に9♂♂2♀♀が飛来。アオドウガネは、6月23日～7月8日に11♂♂11♀♀が飛来した。7月9日以降は、ヤマトアオドウガネは見られなかった。アオドウガネは7月をピークに発生し続け、9月下旬まで活動した。



図1 ヤマトアオドウガネの尾節板。前部と先端部にのみ横一列に黄色の毛がある。



図2 アオドウガネの尾節板。中央部を除くほぼ全面に多くの毛がある。

<sup>1)</sup> Susumu MIKI 兵庫県明石市



図3 明石市江井ヶ島で採集したヤマトアオドウガネとアオドウガネの標本。採集した日付ごとに並べている。

### 考察

1カ月間に計33頭を採集し、日付ごとに標本箱に並べてみた(図3)。ヤマトアオドウガネ9♂♂2♀♀を確認した。江井ヶ島では確実に生き残っていた。

両種の比率は1:2, さらにヤマトアオドウガネの発生期は、アオドウガネに比べて早く、6月初めからメスが採集された。6月下旬に発生のピークがあるようで、7月に入って、さらに多く発生するアオドウガネと少しずれていた。雌雄の比率は、アオドウガネが半々なのに比べ、ヤマトアオドウガネは1:4.5とメスがかなり少なかった。

### 今後の取り組み

2013年以降は、採集はせずに飛来数をカウントし、発生数の参考とし、両種の消長を観察したい。

### 文献

- 岡島秀治・荒谷邦雄監修, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学研教育出版
- 酒井香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説・第2巻食葉群I. 昆虫文献 六本脚
- 兵庫県版レッドデータブック2012(昆虫類), 2012. 財団法人ひょうご環境創造協会